

バストス週報

第三四十九号
昭和三十一年
十二月十六日
発行

DIRETOR
KOITI MORI

REDATOR
SHION ODA

RUA PRES.
VARGAS 188
C. P 112

BASTOS
C. P.
購読料
一年
100.00

バストス

「土地幹旋會社」立案

聯合日本人会にのぞむ

過日新旧移民懇談会の席上、谷口連日会長さんが「ボの人達に、あなただ方は、將來についてどういふ方針をもつていませうか」と質問した。

二十年三十年のウエリヨ組は渡後五七年が人はずと、どういふ十域位土地購入ができた。一域一コンド時代だったから少々工面すれば入手できたものであつたらしく、分譲したバストス移住地は十年賦だったし、困ったふうな顔をする。では生産資金貸しでどういふと、今から考へるとするで夢のような優遇ぶりであつた。

ところが戦後数年たつて、ぼつぼつノボ渡り時代になると、インフレマラソン競走がはじまり、土地までが吾れ芳らむとせり合ひ、アレヨアレヨと去うまもな一寸餘談になるが戦後直後バストス崩壊の様相を示したバニツコは、サウテ区の土地相場は十域五コンド迄下り、遂に教棄して走る人まで現われるに至つた。スベランサ区では隣人に土地を押し付けたが、隣人も引受けかね支払は年賦によればと頭をかく始末、サ区、エ区と名を出しては土地の方達は悪くも、なさろが、他区も大同小異、ムカンサ費と交換で土地を手放す人も少かり、さういふ状態であつた。他人の安く手放した土地を拾い集めた人は今日どうなつていゝるか。今や大地主として押しも押されぬ堂々たる地盤を築き上げている。

今日では最低十域百コンドである。さういふになると、いくら養蚕景気でも容易に土地入手は望めない。そこで谷口さん、心が配れて、農業で独立する気がし、転業するかと、というふうな打診をして見たのだから。

答の中には四五先きには腕におぼえの小商賣でも始めたい人もあつたが、大部は「こればバストスに住みつき度い、レが土地を年賦で買える方法」の設定を希望して居るようであつた。

その時司會者の本田さんが、バストス

ALFAIATARIA IMPERIAL



Bastos
丸山洋服店



わかもと

わあッ！ すてき
ナタールのフレゼンテに
わがさん、いぶん、気がきいてるわ……
わたしのためをおもつて。
ワカノモト子



モラツクカタノキツト
ヨロコブ
日本ノワカモト！
アナタも、イカガテストカ

お最寄りの
薬店で
輸入先伯國總代理店
パリス製菓薬会社
社長 中又保益太郎

から去つていく人の土地を連日会が仲を
取つて一応買収しておき、新移民さんた
ちを入植せしめよかつた。再合議する案が
あつた。連日会とは別な、土地幹旋會社
の様なものを作り、移住振興會社から
融資を仲ぐという仕組みだ。あつたか
もバンデランテ組合の水馬さんの方で、
いわる水馬構想なるものが発表された
ので、それと抵触するようないふことがあつ
ては、いけないと、しばらく静観すること
となつた……との説明があつた。

連日會案の精神は、
バストスを去つてゆく人が土地を日東
以外に渡してしまふと、農法經營が彼
我異つてゐる為め往々にして利害相

及するメモゴトが起りがちである。
 ○できることなら次の地主も同胞がよろ
 しい。新移民さんを迎え入れてバス
 スを、この上にも賑やかになしたい。
 のがその狙いであるから。水馬さんの立
 案は全然おもむきがちがっている。
 水馬構想というのには一口にいうと、五ア
 ルケール単位のモテル裏百家族を新移民
 として招き入れ、鶏牛豚、珈琲、ホンカマ
 など多角式経営をせよ。別に乳肉加工工場
 を設けて四年間に目標の線に達する様
 導する。何年か先には皆独立するのだが
 一応バンデランテ組合の枠内に於ける共
 存同栄であり、引いてはバスターズの繁栄
 に寄与する面も多いといふ。
 さく処に於けると水馬さんの案は既に予
 選をパスして愈々最後の審査を受ける階
 段に達しつつあるといふ。頼むは悲願
 達成の一日も速かならんことを祈るもの
 である。畜産一時に興り酪農バスターズと
 して更新する日。バスターズ経済は千鈞の
 重さに加うるであらう。

連日会に於ても只今の陣容に於て「土
 地解放会社」案を新規に立案して移住
 振興会社から融資を受ける様奔走されて
 は、どうであらうか
 ○此の案は特殊地帯バスターズを保存する
 精神面を強調することに於て意義がある。

勿論金は先様のものをかり必ず借款に成
 功するかどうかは未定だが扶養思想する
 より、尚つて粹けんことには持はあくまい
 向後毎年何家族かの新移民が来植する
 としても、四年間の義務年限過後もバ
 スターズに引渡めんには、とあるよう道
 を講じておこなは無理であろう。バスター
 スの将来を真に考慮して、今にして土地
 接收策を樹てない。朝に一地区、夕べ
 に一地区と次第に同胞所有地が減ってい
 き、第三のバスターズ衰退攻勢がいつ押
 寄せて来ない。誰が保証できようか。

何々工業、何々商工と次々に移住振興
 会社の融資獲得に成功した話をきくと、
 一商社が自社の金儲けの爲めに活動して
 居る様な印象を受取るが、勿論商社の発
 展は海外移住地全体の立場から見て成功
 であらう。しかしバスターズ移住地の如く
 かつての日本半官半民で作った特殊地帯
 の保存は、たとえ融資の力によってでも
 支えて行かなければならぬ義務があらう。

此の融資は土地という担保物件がある
 から金を貸した方に損害をかかせることは
 先づ無いとして、融資を受ける側の勤誠
 と使命が、充分通じるように申請しなけ
 ればなるまいが、余り先走りをして詮議
 するは非礼に当る。がこの土地解放会社

SAPATARIA HAYAKAWA



早川靴店
 心も軽く
 クツも軽く
 皆様
 お正月のクツの
 御用意

夏休み！

あみき ならいましよう
 不二式自動あみきの機
 冬は、たのしい毛糸あみ
 手あみの好きな方には
 手あみも教授いたします



（寄 宿舍 設備）
 梶山米子
 シネマン マエ

Nossa Relojoaria

AV. TAMOIOS 785 FONE, 1234 TUPÁ



ナタール 年始年末の
 プレゼンテはぜひ
 当店にて
 時計
 メガネ
 ユピワ
 万年筆
 メカマシ
 その他

土地を賣る人の心持になると、一応まッ
 同胞に相談し、もし同値を同胞に渡す
 のが定石のようである。しかし同胞に買
 手が無いとするところ、有に暇は代えられ
 と〇〇に渡すことになる。附道がバスター
 になり隣近所と同胞が店なくするに心細
 くなつて、つい又自分の土地を放してし
 まう。バスターズはこのようにして人の威
 った過去をもつていて、これを互に銘記
 したい。

(系音)

95-181-16

橘流筑前琵琶 杉木靖鳳師未植

去る十二月一日中央線スガノ在住杉本
 靖鳳(セイホウ)と云う筑前琵琶師が週報社
 を訪ねた。ナニワラシ、ジョーリ、なご
 日本固有の音楽も、コロニアではおんた
 ん影がうすくなつていく折柄、これは又
 チクセンビワとは、大した古典ものと思
 ったが、われら青春の頃、破情樂履に
 て蓄声を發し「ソレ、クジンハ、タイカン
 スウ、レ」とやつたこともあり、なつかし
 さの余り、じや一つきかせて下さいと伺
 夜、句会のおと、ベロンベロンを拝聴す
 ることとなつた。
 ところがきいて見ると中々うまい、常
 陸丸で「千里をかける猛獸もオレと大カ
 シンバチンバチンとやることかへくると
 羊甲斐もなく「よいしょ！そこそこ！」と
 思はずやじつてしまつた。若い時きいた
 句がそのまますりすり口をついて出てく
 るから不思議だ。因夜きいていた男女二
 十人は、一人のこらふ感に打たれたとい
 う顔つきだつた。
 その翌日は樓旅館のサウラで四五十人
 のビワあきにさかせ、つづいてブルワ
 ラ、ウニオン、シャ、カラと招待があつて中
 々又気がよいとの評判である。
 同師は市内西野ハイルにとまつている
 から、招きたい方は時日を約束するこよ
 い、気がらくとこ元でも出かけ、決して
 エラ相な顔をしなさい、よい人である。
 子供たちにもわかる「台きりすすめし
 など」といふお伽がわもやつてくれる。
 の琵琶をさく端居の娘も拍手せるの

バストス西風気を吐く

去る十二月一日聖州農産協同連合主催
 一回西風品評会がカルロスネウサナホ
 レ街(南伯中央産組のある所)で開かれハ
 ストス中浦三司、白須勝治両氏の「二等
 入賞を告ぐ」記事が各邦字新聞を賑わし
 ている。一等金メダルと賞状、二等銀メ
 ダル、三等銅メダルは白須千之助さんと
 云うから二等三等を親子でカクトクした
 わけだ。バストスの西風が名声を上げて
 いる今日、これがひとりで有名になつ
 たなごと思つた大きなあやまり。中浦さ
 んといひ白須さんといひ、バストスでは
 中堅の篤農青年、農事講習会には必ず出
 席して専回家も驚く程の高度の農業智識
 と技師と有する人たちが、今回の入賞は
 決して偶然やまぐれ当りではない、西風
 に限らず、あらゆる面でつくられた生産と
 して居る人たちである。

出聖御挨拶

成 招 政 一

酷暑の砌り皆様いかが御清光遊ばさ
 れますか御伺い申上げます。
 扱て私方一家此の度家事の都合上サ
 ンパウロ市に移転することになりま
 した。
 実は御当地スロリア一区四組大川橋
 太郎氏跡に入植しました節は永住の
 決意でありました処、転業の爲め三
 羊余にして御別れすることとなりま
 したのも、據慮ない宿命で誠にお名
 残り惜しく存じます。

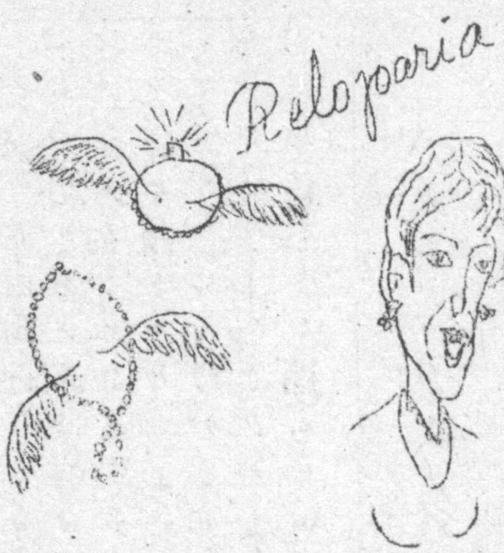
在植中は区の方々に一方なりぬ御厚
 誼を賜わり、組合の諸賢又はシタ
 テ御在任の各位、その他皆様に御懇
 意にして頂きましたが、御恩の万分
 の一にも酬ゆる事なく退去致します
 ことは、誠に不本意至極でございます
 す。何分ともにお健健康に御注意遊ば
 され御家業御隆盛を祈り上げ御別
 れの御挨拶と致します。
 出発に際し、御餞別を頂戴ありが
 たく存じますが一々考上致しかね茲
 に畧儀を紙上御礼申述べます。
 元カトリア一区
 成 招 政 一家族一同

各位

日 益 り

○ 出城の彼の日益り行くは何処 菊子
 彼の外出城は有名である。その彼がある日
 しかも日中あつた益りをそそくさとして行つた。見れば
 上衣をひっかけ、その姿は興味深く、な
 がめたのであるが、ある外不精の男が、この日益
 りに、こゝへ行くのであると、なめや、た風流で
 彼と作者と二人の姿が描かれて居るところが、ミソ、
 暑いという概念に提わられず、癖のある人物を
 配して、よく効果を出していると思ふ。(宗)

Takata



たはッ!

はねが生えて

とぶように賣れる!

○ ○ ○ ○ ○
 あんまり 安いので、にせものではないかと
 お問合せがごさいます。
 どうぞ、ご心配はいなく、
 開業二十年を迎えましたのも、これひとえに
 皆様のご愛顧による所。ごひいきに酬ゆる
 微意にすぎません。
 こんな機会に、二度とごさいません
 今がほんとうに、お買い時でございませすから
 としどし、おいで下さい。

男子・婦人用 腕時計 オメガ、チソット
 エスカ印
 メカマシ、スリッコ、首飾り、メガネ
 指輪、アリアンサ、萬年筆、その他

開店二十周年記念謝恩大賣出し

高田時計店

下・ウアルガス街 三六五



虱

吸血昆虫

フラジールにも虱は居る! が
 此の一文は、隠岐金藏氏のスクラップした
 もりの中から抜擢した。従って在り日本時
 代である。

吸血昆虫として人体に害を及ぼすものに虱
 蚤、南蛮虫、蚊の四天王があるが、吾人の吸血鬼に對す
 る概念は如何なる程度か疑問である。恐らく物の教
 にも足らぬ智識しか持合せがないであらう。筆者もそ
 の例に洩れぬことを白状しておく。此所では虱について
 て書いて見ようと思ふ。

現在流行の怖るべき疹チカスの媒介者たるシラミ
 (シツ又はヌエツ) 俗にいう虱は、無翅目(以前は半翅
 目)のシラミ科に属する昆虫である。
 古は木左左、なる名前を用いていたのが、虱、虱と何
 時よりからか名が覆つてきたのである。日本から古未
 かし在存していたものに相違なく、今日に於て敗戦日
 本の吾々を悩ましてゐる虱は、この木左左の末孫に
 違ひないであらう。

何となれば、長い間銭湯に行かなかつたり、不潔な衣類
 を着て居れば、シラミが湧くと云う。又古い書物による
 と虱は垢が元化して、云々であるも、然し凡ゆる生
 物の發生には、その親が必要なることは、パスツールの学
 説によつて明らかになされてゐる。かうである。

日本始つて以来現今程、虱を問題化した時はないであらう
 國七びて虱あり、元のように毎日も風呂に入つた頃、問
 題にはなかつた。虱などは、乞食の半乞食の尋問に答へて
 昔は現在程に、虱が問題にされなかつたようである。現
 在では例え一足でも虱を見付けようものなら大騒ぎで
 あるが、昔の人達は、虱かたかたでも大して意に介らな
 かつたばかりでなく、むしろ虱がたかたのき自慢とするもの
 と云つた事もある。

隣國の中國は文字の國であり、虱に關する言語も
 相當ある。例えは「貫虱技」は余程小さな虱を射る
 石人多分言つたものであらう。「貫虱之心」之れは
 相當度強いケンビキョウ的の眼があつたのであらうと
 思われる。晋時代の清語の流行する頃には、しきりに
 虱のことを言つてゐる。

阮鏡位には「虱處禪中、自以為善也」とあるが、之れは
 虱が禪を立派な業と心得て、たというつたのである。晋書
 には王猛が桓温に會つて、虱をひわり潰したと云う。
 「談世之輩、捫虱而言、傍若無人」との傍若無人とい
 う言葉は皆、今も使つてゐるが、言葉の起りはエライ人
 の前を虱を潰すところから起つてゐる。人前を女を控く
 ことではない。

我國には「シラミツツクシ」といふ語がある。之れは虱を
 手にとつて見たことのない者まで、心して使つてゐる。
 説明するものも野暮な位、皆さん、今や虱通であられる。
 昔から千手觀音の具名があつたが、支も形から来て
 いるなと云うのも、木か。
 兼好法師の徒然草の九十七段目に「身にしろみあり、家
 にネズミあり」とあるのを見ても、昔昔日かなりいたらい
 芭蕉も虱と蚤がいて小便くさい木賃ホテルに泊泊

したのではなかつたか。一茶もわらが春の中に
「……これは生きとし生けるもの、蚤虱に至るまで、命
おしきは人に同じからん、ましてつるみたるを殺すは罪深
きわざなるべし」と云つてゐる。仲よく愛したのをそのま
に……は繁殖するばかりである。

相馬御風の「良寛坊物語」は皆んが良く御承知のこ
と思つて省略しておく。

良寛坊主もあれだけの虱と養殖し乍ら、遊ぶだけで
は勿体ない話だ。少し叮嚀に、そして多少なりとも科学
的に観察してゐた。日本の「ファブル」として昆虫学上か
ら皆の役に立つてゐるうちに、日本人はどうか非科学的だ
かりいかん。だから戦争に敗けるんだ……などというの
今はやりすぎる意見で面白くないが、兎に角彼坊主、虱
が命取りの伝播者だとは知らなかつたのは、知りぬが佛
と逆行がない、知らぬが坊主だ。今ならいさなり首根
つ子をつかまえて北中からD.D.T.をつぶこまれたらう。
第一次大戦の時、懸崖生活のつれづれに虱とやらが、は
たが、佛国の兵隊は虱にトトトという名をつけていた相
馬。「トト」というのは可愛い奴と云つた風を言ふ事だ。
パリの女が男をつかまえて「モン・トト」など云う。「わが
シラミよ」と言う意味がある話ではあるまいか、など
脱線していくとネリがないが、紙面の都合もあり、割愛さ
せてもらう」とする。

さび人々に寄生する処の虱には、アタマジラミ、キモノジラミ
(コロモジラミ、ヌノジラミ) ケジラミの三種があると大抵の
書物に出ているが、之れは誤りで、アタマジラミとキモノジラミ
は共に同種類の変種であつて、その形態上の差異は、上
髪から後に着物に移つた習性の變化によつて幾分におこ
つたものと云われる。それで人間の虱は結局種類別にすれ
ば二種類と云るのである。

自寛坊主の可愛がつたのは、最も溫和しい第二のキモノジラ
ミであつた。何となれば第一坊主頭では任めない、フラン
スの諺にも意味のないことを「禿頭に虱を採す」というの
がある。第二の最も恐る可き奴は陰毛に宿るケジラミである
が、之は接触伝染だから性慾を止めた乞食坊主にはそ
の機会がなかつたであらう。

アタマジラミについて、MORROの著書「HUMAN」の書中が引用する
と、「この虫はしばしば誰だか誰でも知っている、又非常に
図々しいので誰にでも無理に付きたがる。高慢で王様のよ
うに威張りたがる。その上なかく、教養で無遠慮な
ら、血を吸うまでには決して承知しない。

虱は人から人へ直接移つてゆくこともあり、又煤に違は
れることもある。又時には自體台車や下宿の床の間に
居たから居られる事もある。此頃は洗車、電車、銭湯
で土産に観音さまを戴くことが多いと云ふのである。

此の虱を動物学的に見ると人虱科の人虱属に属す
る。人虱科は人間と猿に限つて寄生するもので、虱
科に稍々似て居るが立派な目がある点を異にする。
蝨科は五節脚で、この中間に寄生するものは、一種異
であるが先刻述べたように、直接種がある。即ちア
タマジラミとキモノジラミである。

猿には猿属特種の虱がいる。ケジラミは毛虱
科に属するが、この科には只一種あるのみであ
るから勿論属も一つである。たゞ一種異しかな
いのが変わった形なので科が別にされている。一つ一つ
について詳述したいが、次の機会に編を改めて書こう

(大阪府立製菓技術学校時代の筆)

あと一週間でクリスマス
あと二週間でオ正月

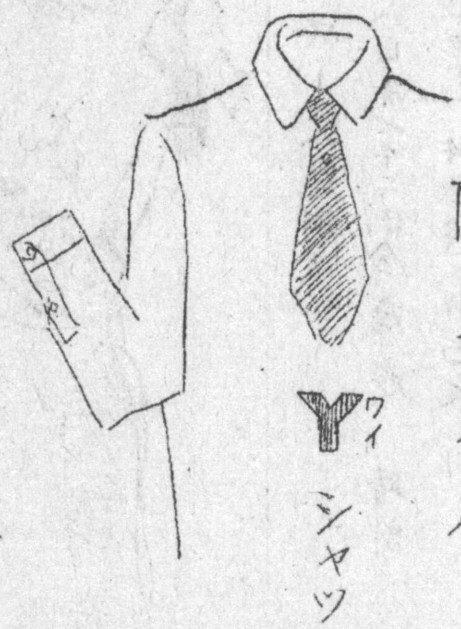
これはクスクスして居られない



一日も早く
クリスマス
カクザ
クリスマスへ

新入荷

美しい日本製食器 お茶セット
コーヒーセット 花ビン色々
電気スタンド レフレスコ用ガラス器
セトモノ各種 写真立て 台所
道具一切 ……店内あふれるばかり
年末年始の御贈答品は
びっくりする程 お安くさし上げる
親切丁寧な 阪東商店へ！



日本人のカラダにピッタリと合う
マルカ **バズトス** をおえらび下さい

エスホルテ型 ジアリオ型
シッキな感触・縮まず・シワにならず。
すわりとして着くおれしな

流行の色と柄・最近のデザイン
親切な縫製・お手頃のネタン
年末年始の贈物は
これにおきめ下さい

マルカバズトスのカミィザに限りませ

バズトスカミィザ會社
特約店

阪東商店

毎度御引立ありがとうございます

年末年始ナタールのプレゼントは是非當店を御利

用下さい
三百ミル以上御買上のお客様に

ジスコ 一枚つづ景品として進呈いたします

バザール木村

コロンビア・ビクター・テイチク
キング・ポッドル・その他

Bazar Kimura

- 年末謝恩大賣出し
- 文房具・学用品・小間物
- 化粧品 ホルサ・ガパン各種
- 新型スルカ・玩具
- チウオンキ
- ジスコ
- 洋傘
- 万年筆
- メラバツマ・シンク



シヤーカーラ

アママンチーナ市よりニキロ半の地点

面積 五アルケール

バナナ一アルケール カフェー一五〇〇本
ミカン其他フルツタ樹 五〇〇本

水量豊か、こんくとして地区を貫き

野菜・西瓜栽培の好適地

住宅 一棟・倉庫の設備あり

シヤーカーラ

◎阿部二郎迄

バウルー市より三、八〇〇米

面積 八アルケール (内ニルケール、ユーカー園)

ロッテの中腹より湧水あり、田アルケール

灌漑(カンガイ)の設備あり

野菜・西瓜、アズレオンの好適地 現在アズレオン
だけで年間三百コントの収入あり

周囲は既に住宅地となり、賣却すも、田アルケ上下
分割商談にも応ず
家賃の都合を
ゆける、バカメントの御相談に承す

バストス短哥会

十一月八日第七十二例会席題「時計」

得点 川子エ 14羊鈴 11和枝

近着の汽車が気になり又しも
取構内の時計見よる

鳩時計がぞみ鳴きする残さ
夜の長居をとがめる如く

鳴り止みし時計のベルを聞き流し
浅き眠りを又もむまほる

幸多かりし過ぎしありの日を思ひ流し
金剛時計を静かにみかく

十幾年持ち古りし又の懐中時計
ふと手に取れば滑りわく想ひ

慰安旅行に求めし玩具の腕時計
夜をも過ぎす吾子は寐てをり

読み疲れ眼鏡はくし時計巻く
明日の哥会のことなと思ひつ

年末試験近かり子のかかりおき
眠醒時計が未明に鳴りあつ

十二月六日 喜雨

早魃に待ちこがれたる雨なれば
森羅萬象息つきにけり

吹木 菊子

渡部 子エ

森重 羊鈴

山本 一男

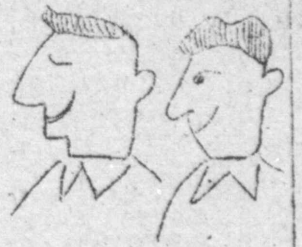
重道 子代子

山本 和枝

浅田 孤舟

森重 扶美

新津 牛丸

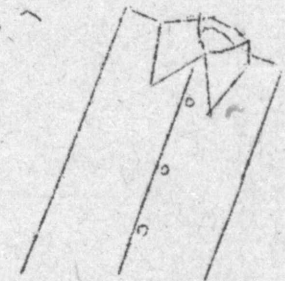


学生カミーズ

御子達の御卒業の
フレゼンテに
せひバストス・カミーズを
御選び下さい

年末を控えて農家も
断も御多忙のことと
存じます

フルマツリーアの晴着
カミーズは どうぞ当社へ
おまかせ下さい



CAMISAS para FORMATURA

バストス・シャツ会社

専賣店 バストス
段東商店
杉 商店
各地有名店扱



殿方へのフレゼンテに一番おはれる
カミーズを
特製ナイロンシャツの發賣中

橘流

筑前琵琶

杉本 靖 鳳 師

来る十二月十六日(日)午後八時

杉柔道道場

(旧シネマカン)



入場 無料

詩吟、剣舞など
その他種入り 歓迎します

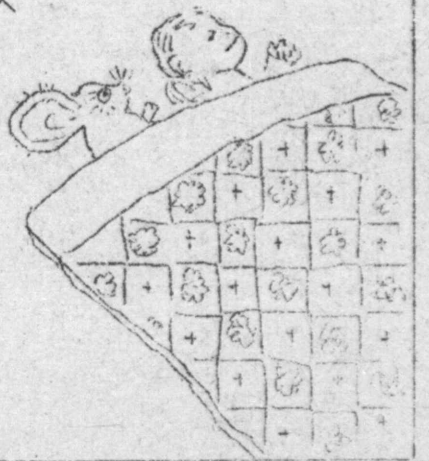
どなたも
おいで下さい

ふるわた 古綿

打ち直し

正月用ふとんを
御整理なさる方へ
おしらせ

古綿打直しは、すぐ御用命にたじます



特製新綿調製

上等絹フトン
既成品
いろいろ

お嫁入道具としてせひ入用の
ふとんは当店の特製品から
おえらび下さい

バストス・プバルガス街五三七番

加藤製綿所

マカコ・ヴェーリヨ と

マカコノ一本のはなし

A マカコってなんのことかい？
B イミンってことのしめれさ
C そうかい、ワシヤまたサルのことか
と思つたよ

はなしがちがう

マキ金「今阿部さんの話のようよ、日本では地方々々で農法もちがうし、農具などもちがってゐる。またなれど一車ばかりだまってるバストスを眺めるのもよいと思う。大体温帯の人が移住してきたが、ここは熱帯だ、それには熱帯農業の智識が必要なんだが、そういう方面の研究が、できていないと思つて、小野山さんなどは熱帯地で苦学の経験があるから、すぐ役に立っている。こういう点でレスベイトされたりはいいかい？」
「はい」
「では今度日一寸角度を変えて、新しい人たちが、とんでもない処へ来たというふうな話がありませんか？」
「マキ金、日本からの送り出し情勢は不徹底で、送りさえすればよいというふうな点はあるように思つて、戦後移民の中

MERCADO DE ADAMANTINA アダマンチーナ公設市場

↓は去る十一月十五日落成式を行いました。
↓メルカード内部の増床をおしらせいたします。

○ 總建坪 一千二百平方米
○ 近代的な建物で通風採光に重きを置き、通路も完全、水道設備も完全、頗る衛生的です。

多額の資金を要せず、市内目貫の場所で活動できる機構です。
只今 バラツカを好條件で貸與中

アルゲールの申込みを受けて居ります

新天地開拓の意気や一度ご視察なさいませんか

□ バストス産の西瓜やホンカン、その他 果物・蔬菜を
□ ここで販賣してごらんなさい。販路は無限です。

生産者の手から
直接消費者へ



市場を
通じて
レジアル・コンツルトローラ
アダマンチネンセ株式会社 (荒木道)
電話 三〇〇八
郵便 六二

お知らせ

十二月十六日(日)午後一時

正午より

農事講習會

講師 隱岐金藏 小野山三郎

○ バストスの農業
○ 土壤改良について

會場 バストス週報社裏サロ
聴講 必ずとも末聴自由

蚊

宿題の算術解す蚊を叩く 里女
蚊の進む凱歌の如き声立てて 紀南子
移民史を綴る哀話やマラリヤ蚊 一猪人
灯を消せばすぐ耳を打つ蚊の鳴き 奇峯
テテアーンがさかぬと蚊火の仕度して 糸音

(ココロの語り)

には金をもっているのも多いので思わしく
ないと呼びたく存るのもあるし、ホント
ウのララジルがわからずに来た、たまに
たと思っている、あわれな移民が多い
日本を立つ前にトラコーマなど、す
かりをおいて送り出せばよいのに、そう
うことにも手ぬかりをうけている。今は
人海軍はないが、昔は領事は移民にあま
り接解をもつたといわれた程をうな
どにか、いさあたりはったりの感がある
西イサオ「ララジルの極楽でないことを自
覚してはいるが、昔は領事は移民にあま
り接解をもつたといわれた程をうな
多し、このララジルの送金率も五
十倍用を突破していることでもわかる
し、此れを他の日本送金に比較して上
廻っている。送金者がもっと親切でな
ければいかんと思つています」
本明司会「ツパン方面の時ではバストス
の病院はエガ活わっているというので、
ここにご因希の西君と木村ドトールが
実地見聞に来られた。ツパンで
さえ、二人が日本に話ぐ食いちがうのわから
いねんや日本と伯国の巨商はまちが
いは所々にあることと、さういふ感じが
思いつて、さういふ感じが、さういふ
思いつて、さういふ感じが、さういふ

21-12-16

歳末謝恩大賣出し

心をこめた謝恩奉仕の意味で

- 一 クリュール・ガルボ・ハシ各種
- 一 パネラ・プレツソレ 各種
- 一 フラックタ サラテラ各種
- 一 日本式の醬油さし その他
- 一 肉ひき機 カヌーひき機
- 一 ジャハ各種
- 一 マカロン製造機(家庭用)
- 一 石ジン

○その他目新しい品が沢山入荷いたしました
 ○この一品にも品質に自信があり
 お値段にも値打にも自信を以て
 おすすめて下さるものはかりませ



ホント前 浮金物店

(マカコの話) 責任は半々
 司会「日本からこちうへ来てワント話がある福岡東のノボの人は福岡海外協会の藤原氏の話をきいて夜具は何もつて来なかつた。伯国は暑い國を、ハタカで行くと云われたんで実行した。ところが来て見ると霜が降ってどうにも困って来た。ドランドに入植した米が不作で、ヤリさねお、誰か手取りがなくて困ったという話。又マカコが移住して現地の情態が話かちかると聖市へ行って来て佐藤新者氏の世話を受けた話。海外協会も無責任だ。その代り、二、三無責任だ、移民も遣出人の事情がなくてなけれはいかん、いかに話かちかすか、思ひます」
 マカコ「北海道雨害、福岡の藤原君とかく、雨の降る人物でした。移民が手取料の何れかをとるといいうような話、早く渡伯したい者はどうしても何か細工をする」
 各口「責任は半々、責任をと思ふね、アラジルの事情など、昔とちがって、かく四、五万の同胞が、いふのだから調査しようと思へば調査をしますよ。夜具の問題を、なにか常識でいける。オチ責任は両方にあつて半々をな」

VIAGEM A TERRA DE SERRA DOS DOURADOS

只今大評判の**コブリンコ**土地會社提供の

セラードス・ドランドス植民地第一回分譲区**イバテ**一區は
 既に賣り切れとなりました。

只今第二回分譲地**フイゲイラ**区の賣出しを開始しました。

同會社は当地方日本人各社の御便宜を計り**日本人部**を設置し

第一回視察團を募集集中中です。左記の規定により是非一度北芭

唯一のバルミタール地帯、セラードス・ドランドスの御視察をお奨め致します。

- 時日 一九五七年一月十二日朝出発
- 集合所 東利徳氏方 イタレージヤの前
- 携帶品 毛布一枚
- 往復便 会社持ち

州道路既に完成、幹線道路は産業青年開發隊の手により着々

工事を進めてをります。

製材所 完成致しました。練瓦工場も日産(瓦工場共)二〇万枚を生産して居ります。

明年度 入植家族は五〇〇家族を突破致します。

ぜひこの好期をご利用下さい

日本人部

東利徳
 阿部二郎

年末夜間営業 休止

おしらせ

誠に申わけありませんが、健康が、まだ本懐いたしませんので、今年に限り、年末の夜間営業だけ休ませていただきます。

男前製作所

サロシ 森

フレケース様

御しらせ

来る十二月二十日午後八時から御報恩講法要が修せられます。

○八十山凡水師の御話

御報恩講とは、どういふものか

信者各位はお誘い合され御参詣下さるようおわがいを致します。

バスター梵真寺布教所

御礼

十二月二日故母堂様三年忌追悼御法事の際、金巻封御寄進相成り有難拝受致しました。

ウメオン正色

上村正治様

梵真寺布教所

御礼

去る十一月八日、御子息勇様三年忌御法養を営まれた際、追善の爲め金巻封御寄贈になりました。三年前自動車事故の爲め帰校の途次あえなく亡られた故御子息の冥福を祈ります。

ウメオン正色

小倉一三男様

梵真寺布教所



カルクテ

ハキゴコノチノヨイ

菅原のそりり

卸 小賣り

卸値はごそりごんにたじまます

パンテラテ組合孵化場のせし上

菅

原

カンホスナリス街

毎年好評をいただいで居ります。特選大丸大和西瓜は外皮無縮の白色で、薄皮でありながら、とても強く、輸送に耐え、肉は鮮紅色で甘味強く、大型で生産多く、栽培し易く

特選種

大丸大和西瓜

白色 無縮

大丸砂糖西瓜

日本よりの輸入種子

当地に最も適した理想的品種です。

商品として最上の逸品

只今予約をいただいで居ります。

多少にかかわらず御申込下さい。

植木商店

アネマル街

左のモヤ

(マカコの話) 僕はたまに友人

佐野「たまにされたとか、たまにされたとか、リヤ自覚の問題だよ、僕はををしらべ

て、かくこの上でマカコを来たし

生方「私はたまにされたな、これは思ひませ

ません。

ラキ重「古い話だが、明徳梅吉海兵衛移住部

長が私に、尋ねたよ、いわれど、か当時

加那島を、うさ足りた、時代を、た

か、私、同じ、耕地に、六年、手、た、た

本田「では、皆さん、バスター、た、た、た

何か、不満、あり、ません、か、あ、あ、あ、あ

谷口「一寸、皆さん、に、質問、したい、ので、す

ね、あなた、の方、は、農民、として、来、られた、ん

です、が、将来、を、も、農業、を、やる、お、つ、もり、か

将来、の方、針、を、い、た、た、う、な、こと、を、

生方「農業、移民、です、が、純、農、は、私、の、同、航、海

者、十、六、家、族、の、内、二、家、族、で、した、あ、とは

百姓、の、経験、は、ない、と思、ひ、ます

○「私は、義、務、年、限、が、す、ん、だ、り、何、か、小、商、賣

でも、始め、よう、か、と思、っ、て、い、る、ん、で、す、が

△「ア、また、未、だ、は、かり、で、さ、さ、の、事、を、

考、え、て、い、ま、せ、ん、が、

岩口「つまり、私の、云、つ、た、こ、と、は、土、地、を

入手、した、く、で、中、々、高、価、を、手、に、入、れ、が

たい、何、か、団、結、の、力、と、い、う、こ、と、に、な

以下、次号

- Com efeito, disse elle, o caso é talvez curioso.

Tre, desgrazadamente, muito triste para nós, o muito inquietador:

o pobre "Joli-Coeur" estava ameaçado d'uma pneumonia.

Aquella brancito que elle tanta vez estivera, foi tomado pelo medico, e a lanceta enterrou-se-lhe na veia sem que elle desse o mais leve gemido. Eu, já se vê, não ficara na cama: tornara-me enfermeiro sob a direção de Vitalis. O pobrezito de Joli-Coeur gostava dos meus cuidados e recompensava-os com um sorriso meigo; o olhar tornara-se-lhe verdadeiramente humano. Enquanto eu ficava de guarda ao nosso doente, Vitalis arranjou uma sala de espectáculo na praça do mercado, porque uma representação ao ar livre era impossivel com o frio que estava; fez os cartazes e pregou-os; construiu um teatro com umas poucas de taboas e gastou corajosamente os seus cincoente soldos em comprar velas, que cortou ao meio e affim de duplicar a iluminação.

Quando ouviram o tambor "Capit" ladrrou alegremente, e "Joli-Coeur" ergueu-se um pouco, apesar de estar muito mal nessa occasião; creio que ambos adivinharam que se tratava da nova representação.

Conbe-me a mim, a vez de aparecer primeiro no teatro e cantei duas caçonetas que os aplausos que recebi foram bastante escassos.

"Capit" foi mais feliz; applaudiram-no por diversas vezes e com entusiasmo. A representação continuou; graças a "Capit" terminou no meio de bravos; não só davam palmas mas batiam com os pés.

Chegamos o momento decisivo. Enquanto eu em cena dansava uma dança espanhola acompanhado por Vitalis, "Capit" com a bandeja na boce, percorria todas as filas da assembléa.

Juntaria elle os quarante francos? era a pergunta que me oprimia o coração, enquanto sorria ao publico com os meus ares mais agradaveis.

Estava já exausto e continuava a dançar porque não devia parar senão quando "Capit" voltasse; elle não se apressava e quando lhe não devern nada, batia pancadinhas com a pata na algebeira que se não queria abrir. Fialmente vi-o apparecer, e ia parar quando Vitalis me fez sinal que continuasse. Continuei e aproximando-me de "Capit", vi que a bandeja

não estava cheia, que lhe faltava ainda muito.

As nossas cousas depressa arranjaram, e não tardamos em voltar para a estalagem. Subi a escada e entrei no quarto a correr; o lume não estava apagado, mas já não tinha labareda. Acendi muito depressa a vela e procurei "Joli-Coeur"; admirado de não o ouvir.

Estava deitado debaixo da manha, todo ao comprido, tinha vestido o seu uniforme de general; e parecia dormir.

Vitalis debruçou-se ao meu lado.

- Ah! disse-me elle, está morto. Isto devia acontecer. Vês tu Remi-rio, fui culpado em te tirar a Mrs. Willigan. Estou castigado. "Zerbino" "Dolce" Hoje, "Joli-Coeur". Ainda não é o fim. Eslevamos ainda bastante longe de Paris.

Vivemos de nos pôr a caminho pelas estradas cobertas de neve e andamos desde manhã áta á noite contra o vento norte que nos soprava na care.

Como foram tristes essas jornadas! Vitalis caminhava á frente, eu

atrás dele e "Capit" tra de mim. Evidentemente passava-lhe pela cabeça ideias extravagantes; onde

conduziria aquelle velino alto, aquella criança e aquelle cão?

O silencio era para mim expressivamente doloroso; precisava falar. Atrevo-me a dizer-lhe, mas Vitalis só me respondia por algumas palavras laconicas quando eu lhe dirigia a palavra e isso mesmo sem se voltar.

Felizmente "Capit" era mais expansivo, e muitas vezes enquanto iam andando, sentia na minha mão uma lingua húmida e doce; era "Capit" que me lambia para me dizer:

- Sabes, eu estou aqui, eu "Capit" eu o teu amigo.

E então acariciava-o meigamente sem parar. Parecia sentir-se tão feliz com a minha prova de afeição como eu proprio me sentia com a sua; compreendiamos-nos maravilhosamente.

Para mim elle era um espirito e para elle, tenho a certeza que era também o coração dum cão e não menos sensível do que duma criança.

(Continua).--

Casa Maeyama

Offerece o Novo presso.

Feliz Natal



年末大売出し

お正月用品

日本品

なつかしの故国の香り

種々 沢山に取揃えて

居ります

御贈答用飲料水

お正月のみものは

当店に御用命下さい

クワラナセルベージヤ

東麒麟鳳 其他日本酒

内外洋酒 いろいろ豊富に取揃え

大破格のお値段で皆様の

御来店を御待ちして居ります

前山商店

プヴァルガス街 電話二十六番